

- 1.【教育目標】 考える力を培い、体力作りに励み、優しさや思いやりの心を育てる。
- 2.【本年度の重点目標】◎安全な生活が出来るようになる ◎幼稚園内外における身近な集団生活に適応出来るようになる
◎身近な自然に興味や関心を持つようになる ◎自由な表現活動によって創造性を豊かにする

3.【評価項目の達成及び取り組み状況】

重点的に 取り組む 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						総括 評価	コメント
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		評価結果に関する説明・意見等
○安全な生活が出来るようになる	家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り安全に行動するための見直しと実施をする。	1	定期的に道具の劣化や故障がないかを確認して、修繕する。	2.9	1	子ども達が安全に伸び伸びと遊べるように定期的に目視して不具合がないかを調べ、外遊びの際に遊具に劣化した部分がないかも見て報告し、改善できた。	2.9	2.9	職員一人一人が意識し、子ども達が安全に生活出来るよう、不具合の報告や改善に取り組んだ。子どもにとって安心できる環境とは不安のない環境であることを意識し、今後も、その子らしく過ごせる居場所を保証し、緊急発生時の役割分担の確認をしていく。
		1	災害時などの緊急事態発生における全職員の役割分担を理解して強化する。		1	避難訓練を通して避難の仕方や伝達内容等を園全体で共有して理解し、緊急事態発生時の役割分担を確認して役割に沿った訓練をした。			
		1	熱中症予防としての衣服調整や水分補給が、自分でも出来るように働きかける。		1	各学年に応じた言葉掛けを行い、水分補給の時間を定期的に設けて習慣化する。気温や状況に応じて、衣服の着脱をする心地良さを実感させ、自ら進んで行うようになった。			
		1	交通ルールを身に付けられるよう、安全指導をする。		1	交通安全の絵本や紙芝居を見せ、特に、園外保育の前等には、横断歩道の歩き方や信号の見方等を具体的に再確認し、実践出来るようにした。			
○幼稚園内外における身近な集団生活に適応出来るようになる	家庭、園、身近な地域が関わりながら、子どもの発達に即した社会生活が出来る様に援助する。	1	異年齢の子ども達と遊ぶ場所を提供し、友達への思いやりの気持ちや優しさを育てる。	3.2	1	交流会で、自分より小さい子と手を繋ぎ、体を動かして一緒に遊ぶ中で思いやりの気持ちを育て、外遊び等で異年齢児との関わりが見られた際には関わりが広がるよう、やり取りの援助をして見守る。	2.7	2.9	交流会、外遊び等で様々な相手と関わる中で、状況に応じた挨拶や行動が出来る様になってきた。子どもの成長に応じた遊びを取り入れ楽しんだ。トラブルが起きた際は、ロールプレーイング等を使って思いの伝え方を援助した。繰り返しの経験で、身近な集団生活に適応できるようになってきた。友達との共同的遊びを構築できるような遊び込める時間の確保が更に必要である。
		1	挨拶や社会的マナー等、相手を意識する行動の定着に努める。		1	様々な相手との出会いや関わりにおいて、場面や状況に応じた挨拶や行動が出来るようになる。挨拶の大切さや気持ちを言葉にする重要性を伝え、出来た時は、その姿を褒める。			
		1	保育者や友達と関わり、安心して遊べるように援助する。		1	子どもの成長に応じた興味あるものを遊びに取り入れる。また、会話しながら楽しく遊べるようにし、トラブルが起きた際の相手とのやり取りや解決方法は、ロールプレーイング等を活用し援助する。			
		1	友だちと共同的遊びを展開して楽しむようにする。		1	子どもの創造性を高める廃材等を置き、遊びが発展できるような環境作りをする。一人ではできない遊びの仕掛けをし、保育者が仲立ちしながら一緒に楽しむようにする。共通の目的を持って力を合わせ、時には役割分担をしながら遊びを展開できるような遊び込める時間を確保する。			
○身近な自然に興味や関心を持つようになる	園環境を活かした身近な自然や栽培に興味関心を持たせ、命の大切さに繋げた援助をする。	1	季節に応じた野菜を育て生長を楽しみながら観察し、収穫後、食べる喜びを味わう。	2.9	1	季節に応じた栽培体験（苗の植え付け、草取り、観察、収穫）を楽しんだり、収穫した野菜を食べるという一連の経験が出来るようにする。夏野菜を使ったピザ等を食べさせ、苦手な食べ物にも挑戦出来るようにする。	2.9	2.9	季節に応じた野菜を育て、生長を楽しみながら観察をし、収穫した野菜は子どもと共に調理して一緒に食べる喜びを味わうことが出来た。園の身近な自然環境を活かした取り組みの中で、子ども達の発見や気付きに耳を傾け、共感することにより、さらに興味関心を深めることが出来た。
		1	自然や気象現象に興味を持ち気付きや疑問が生まれるように働きかける。		1	子どもが実際に目で見て変化に気付く自然現象（雨、虹、氷、雪、水たまり）等に興味関心を高められるよう、タイミング良く発信をする。			
		1	園庭や畑遊びの中で、木、草、実等の自然物への関心を持たせ、製作活動へ繋げる。		1	園庭や畑、木、実、草花に興味を持ち、集めたり、見立てたりして楽しむ場を設ける。生活の中で自分自身が見つけた自然物を使い制作活動が出来るようにする。			
		1	身近な人や生き物との関わりの中で生命の大切さを学ぶ。		1	虫を見つける喜びを感じると共に、捕った生き物の観察をして命の存在に気付き、慈しむことが出来るようにする。			
○自由な表現活動によって創造性を豊かにする	幼児期の発達や幼児の学びを踏まえた教材の工夫をして環境を構成する。	1	子どもの発達を理解して年齢に合わせた歌やリズム遊びなどの表現活動を取り入れる。	3.0	1	発達段階に合わせてダンス内容を考え、運動会や発表会での表現活動に繋げる。楽器の特性を知らせ、演奏が楽しめるようにする。	2.7	2.9	子ども一人一人の発達を理解し、表現活動に取り組んだ。歌、リズム遊び、楽器演奏を、友達や保育者と楽しみながら取り組み、運動会や発表会で保護者に披露した。自由な造形活動で創造力を育てることが出来た。今後も、遊びが展開できるような環境づくりに取り組みたい。
		1	動物や、登場人物等の役になりきり、体を動かして表現する楽しさを味わう。		1	リトミックや、楽器の音色、音の高低やリズム等で、想像する動物や人物になりきって表現活動が楽しめるようにする。			
		1	様々な素材の本質を理解しながら作り上げる楽しさを感じると共に物を大切にする心を育てる。		1	様々な道具を使うことで物作りの楽しさを感じ、作った物を大切に出来るようにする。また絵本や物の取り扱いを丁寧にする。			
		1	身近な廃材を利用して制作等創造性を豊かにする。		1	何かを作りたいという子どもの気持ちを汲み取り、提案を聞きながら、遊びが展開できるような廃材等を準備する。			

【総合的な評価結果】

評価（4 点満点）	理由
2.9	安全指導の成果と子ども達の危険を回避する能力により、怪我をする子が減ったので、今後も引き続き、徹底した安全対策に努めていきたい。他学年や未就園児との交流を意識した取り組みや、一人では出来ない遊びの仕掛けにより、共同的遊びが増え、意見を出し合う機会が多くなった。今後も継続していきたい。例年は栽培していない夏野菜を育ててミニピザを作ったところ、苦手を克服する子がかなり多くいて、健康な身体作りへ、しっかりと繋げることが出来た。今後も、子ども一人一人が自分らしさを発揮し、安心して過ごせる居場所が保証できるような環境づくりにも努めたい。

【次年度の重点課題】

◎健康な身体作りと安全に生活がおくれるようにする ◎知的好奇心を高めて探求心を育てる ◎食育の見直しをして工夫した取り組みをする
--

4.【学校関係者の評価】

『安全を守る』と『育てる』の両立には葛藤があったと思いますが、それを推し進められ、先生方の教育に対する熱量を感じる事が出来ました。又、コロナで消極的となっていたところも改善され、保護者の中から、「幼稚園が進化している」という声が聴かれます。時代背景もあるでしょうが、運動会では、父親の育児参加を強く感じる、とても良い雰囲気でした。今後も、一人一人の子どもの育ちを考え、保護者との共通理解に努められることを期待しています。